

第3回 平塚市総合計画審議会

議事録

日時 令和元年12月19日(木) 15時00分～16時40分

場所 平塚市役所 本館3階 302会議室

出席者 19名

小崎委員(会長)、田中委員(副会長)、水谷委員、白石委員、常盤委員、中村委員、鈴木委員、秋山委員、宮崎委員、近田委員、藤井委員、森委員、米村委員、須藤委員、永田委員、出村委員、佐藤委員、相原委員、丸山委員

市出席者 3名

事務局 5名

傍聴者 0名

「諮問」

落合市長から審議会に対して平塚市総合計画(改訂基本計画)2次素案の諮問を行った。

「議事」

平塚市総合計画(改訂基本計画)2次素案について

【会長】今回2次素案がまとまったということで、市長から諮問をお受けした。本日の進め方としては、これより事務局から資料の説明をしてもらい、その後、主に大きく3つのテーマ、「人口減少」、「まち・ひと・しごと創生」及び「SDGs」について、各委員から、2次素案に対する意見をいただきたい。会議の最後に、本日の意見やこれまでの審議会であった御意見を私が集約・総括し、それを答申(案)の元としたい。それでは事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】(2次素案について資料に基づき説明した。)

【会長】事務局から資料の説明があった。追加資料以外は2次素案に組み込まれているという説明を受けている。よって、基本的には2次素案について審議し、追加資料の内容も含めて意見を伺いたい。順番としては、「序論」、「重点施策」、「分野別施策」の順で意見を伺いたい。それではまず「序論」について、意見がある方は挙手をお願いしたい。

【委員】p.12の((5)安心・安全の確保の)上から3行目で、西日本豪雨などの災害のことが記載されているが、それに匹敵するものとして、今年の10月の台風19号があったので記載すべきではないかと思う。浸水規模は西日本豪雨より今回の(台風19号の)方が大きかったという報道を聞いている。また、p.16の人口の展望で、何も対策しない場合の人口についてはp.7にあるが、こちらは令和47年の人口予測となっているが、p.16は令和42年となっており、比較する年が異なるので、同じ年に統一しないと分か

りづらいのではないかと思います。

【会長】今の御指摘はもっともだと思うので、事務局で検討してもらいたい。

次に「重点施策」について、御意見がある方は挙手をお願いしたい。

【委員】4点あり、まず1点目は、p.45にある「中学校完全給食の早期実現に向けた取組の推進」について、「早期実現」というところを、具体的な年度の記載ができないか。2点目は、p.51にある「浸水しないまちづくりに向けた総合的な浸水対策の推進」とあるが、この浸水対策について、報道では、都内では貯水池があったから川が氾濫しなかったとか、川崎市では下水道の逆流防止策がうまくいわずに浸水してしまったとか聞いたが、平塚市で具体的な対策があるのであれば、記載できないか。3点目は、p.47にある「高齢者の就労率」について、「高齢者」の具体的な年齢が何歳であるか知りたい。最後4点目は、p.59の「成果指標」の注釈（ ）があり、その説明が記載されているが、同じページの「取組方針」で「スクールカウンセラー」や「スクールソーシャルワーカー」にも注釈（ ）があるが、同ページ内にその説明がない。P.73の「取組方針」にある「産後ケア」やp.83の「心のバリアフリー」も同様（注釈（ ）があるが、その説明が同ページ内にない。）である。

【委員】p.43の「若い世代の結婚・出産を支援する」のKPIの「6歳未満の子どもを育てている夫婦世帯における、夫の家事参加時間」とあり、2023年の目標値が180分となっているが、これは1日当たりの目標時間か。また、「家事参加時間」とあるが、内閣府の資料では、「家事・育児参加時間」となっており、家事のみだと180分は相当高い目標だと考える。

【会長】事務局について、今まででできた意見について、答えられるものについては答えてもらい、答えられないものは次回に持ち越すということで良いか。

【事務局】そのように対応させていただきたい。p.43の「家事・育児参加時間」については、「家事参加時間」と「ひらつか男女共同参画プラン」に記載されているが、改めて確認させてもらいたい。p.45の「中学校完全給食」の開始時期を明記できないかということについては、担当課と調整させてもらいたい。p.47の「高齢者」が何歳かという点について、KPIにある「高齢者の就労率」を算出するのがなかなか難しく、いろいろ調べた結果、税のデータを使用して算出できないか考えている。そのデータによると、基本的には65歳以上で抽出しており、現段階では65歳以上と考えている。p.51の「総合的な浸水対策」については、こちらについても「中学校完全給食」と同様、担当課と調整させてもらいたい。あと、注釈（ ）について、例えばp.59で、「取組方針」と「成果指標」に注釈（ ）があるが、「取組方針」にある注釈（ ）の説明については、「資料編」の「用語解説」に記載している。一方、「成果指標」にある注釈（ ）については、指標名の一番下段で説明を記載している。よって、説明が書いていないということではなく、混在した表現になっているので、分かりやすい表現に整理させてもらいたい。

【委員】p.34の「基本計画の体系図」にある、「安心して暮らせる支え合いのまちづくり」の中で、「障がい者福祉を推進する」とあるが、重点的に取り組む施策を抽出した後の重点施策にないことが残念である。SDGsの誰一人取り残さないという考えからすると、重点施策に必要ではないか。

【委員】p.49の「高齢者が地域で安心して暮らせる環境をつくる」で、8050問題について記載するほうが良いのではないか。

【会長】このあたりについては、ここですぐに結論が出る内容ではないので、事務局と調整したい。

【委員】私も「障がい者福祉を推進する」を重点施策に位置付けるべきだと考える。また、p.50の「交通事故の発生件数【年間】」とあり、それに対する取組としてp.50の「数値目標」で「交通事故の発生件数【年間】」で、p.53で「交通安全対策を推進する」とあるが、車対車なのか、車対人なのか、自転車の事故なのかなど、どんな事故（自転車事故）が多いか把握した上で、対策をとるべきである。

【委員】シティプロモーションの結果が出たと考えているが、改訂基本計画の中には、序論にしか記載がない。市民にもっと愛着を持ってもらうだとか、市外の方々に平塚市に更に興味を持ってもらうため、今後さらにシティプロモーションを推進するための記載が必要ではないか。

【会長】それでは「分野別施策」について、御意見がある方は挙手をお願いしたい。

【委員】平塚市の良さをもっとアピールすることが具体的に記載できるのではないか。情報を発信しっぱなしではなく、情報の受け手である市民側にも配慮すべきである。また、災害に強い地域づくりに関係することで、災害は100年に1度ではなく、1、2年に1度発生している。市では土のう対策をしているが、限界がある。国や県に対して、河川の整備促進について働きかけるべきである。経験として、避難先への避難は大きなストレスとなるため、実施計画に記載していく内容かもしれないが、避難する側の視点も記載すべきである。小・中学校のトイレの洋式化について、他市では予算を特化して早急に進めており、平塚市でも優先的に進めるべきである。

【委員】p.114～115の「取組方針」で、「多様な担い手の確保を図るため、選ばれる農業・漁業となるように経営及び生産基盤の強化を進めます」とあるが、ハードのことなのかソフトのことなのか分かりづらい。また、環境を守るという意味では、水田は、保水機能があり、暑いときの冷却機能があり、カーボンオフにもなりうる。水田の維持、環境整備やインフラ整備について記載すべきである。

【委員】p.85の「コミュニティ活動を促進する」の「成果指標」で「自治会への加入世帯数」とあるが、世帯数も大事だが、目標設定をするにあたり、パーセンテージ（割合）も併せて記載したほうが良いのではないか。

【委員】（自治会加入の）パーセンテージ（割合）表示について、立場上、あちこちの自治体と話す機会があるが、パーセンテージ（割合）は地域によって全く異なってくる。平塚市は70数%となっているが、50%の千葉県市川市では、これ以上加入率を増やすのは難しいと聞いている。パーセンテージ（割合）の数字だけ見ってしまうと、平塚市が高いので良いのではないかという数字だけの議論になってしまうことがある。世帯数を把握することは当然のことだと思うが、いろいろな世帯の方々が住んでいるので、加入率で見ないほうが良いと考える。また、高齢者の活躍についての記載があるが、若手が少ないため、自治会や民生委員の多くを既に高齢者が担っている。「高齢者」と「活躍」という言葉を合わせて使うときには配慮が必要である。

【会長】p.85 の(自治会加入の)パーセンテージ(割合)表示はせずにこのまま(加入世帯数)で良いか。

【委員一同】(異議なし)

【会長】それでは、このまま(加入世帯数)の記載としたい。高齢者の寿命は延びており、また、年金問題もあり、財政の面からも難しい問題であるが、最低でも70歳まで働けるよう、市としても高齢者雇用の姿勢が大事である。また、p.79の「ケア・コンパクトシティ」に注釈()があるが、「資料編」の「用語解説」にない。注釈()があっても、「用語解説」に入っていないものもある可能性があるので、今一度点検したほうが良い。

【事務局】御指摘の点を踏まえるとともに、「成果指標」に記載してある注釈()と、取組方針などに記載してある注釈()が分かりやすいものとなるようにしたい。

【会長】p.132の「用語解説」における「地域医療福祉拠点整備モデル地区構想」の記載で、「高村地区を含む旭南地区」といった記載となっているが、概念的には(「地区」というのは)対等の概念であるから、このままの記載で良いのか。

【事務局】これは全国でも起こっている団地の高齢化の問題である。(「高村地区」が)「高村団地」という表現であっても違和感はないと考える。市民が見たときに分かりやすく理解しやすいものであるべきなので、誤解を招く表現は変えていきたい。

【委員】p.117の「取組方針」や「主な事業」の中で、「観光プログラム」という言葉と、「成果指標」で「観光メニュー」とあるが、同じものなのか、または異なるものなのか。また、p.119の成果指標の「ユースエール、くるみん、えるぼし等の働きやすい職場づくりに関する認定を受けた市内企業件数(累計)」とあるが、目標値10件が妥当か分からない。

【事務局】p.117の「観光プログラム」と「観光メニュー」について、「取組方針」の「観光プログラム」については、「ツーリズム」といった着地型観光、受け入れ態勢のある観光の視点での記載をなっている。「観光メニュー」については、今までも取り組んできた平塚市を紹介するメニューを指している。また、p.119の成果指標について、「ユースエール、くるみん、えるぼし」は国の認定であり、大企業が多く取得しているということは承知しているが、中小企業は目の前の経営が優先で、なかなかその(「ユースエール、くるみん、えるぼし」の)取得が難しく、その意識を持ってもらいたいということもあり設定している。

【委員】「ユースエール、くるみん、えるぼし」について、認定のハードルが高そうに思えるので、そういった趣旨での10件であれば差し支えないと考える。

【委員】p.111の「商業の活性化と中心市街地のにぎわいづくりを推進する」の「取組方針」で「市内唯一の駅があるという中心市街地の特性を活かし、魅力を高める取組を支援するとともに、持続可能なにぎわいづくりを創出します。」とあり、まさに持続可能な平塚駅周辺の再整備やビジネスの仕方を検討し始めているところである。その中で「成果指標」に「商店街団体等主催・共催のイベントの来場者数(年間)」とあり、それが成果になるということがナンセンスに感じる。今後、イベントの開催を見直していく方向性があり、持続可能ということで年間を通じてにぎわいが出るような、商売がしやすい

ような環境づくりを行政とともに進めていきたいと考えている。よって、イベントの来場者の成果指標はそぐわないと考える。

【委員】p.73 の「取組方針」で「障がいや発達に課題があるなど子ども達の寄り添った支援ができるよう」とあるが、言い回しが変なので、「障がいや発達に課題があるなど、子ども達に寄り添った支援ができるよう」に直したほうが良いように思える。また、p.89 の「取組方針」の中に「これまでに発生した最大降雨 70.5mm/h」とあるが、気象庁では、2014 年 10 月に過去最大降雨は 72mm/h となっており、公式の数値と異なるが 70.5mm/h のままで良いのか。なお、平塚市では、七夕まつりであるとか、総合公園であるとかいろいろあるが、昔から有名な平塚競輪の記載がないように思える。競輪の位置づけがどうなっているのか気になった。

【事務局】(p.73 の「取組方針」で「障がいや発達に課題があるなど子ども達の寄り添った支援ができるよう」の)記載については、そのように訂正したい。また、最大降雨 70.5mm/h については、改めて確認したい。なお、競輪については、総合計画に位置付けた具体的な事業はない。総合計画の施策の中で進めるのが良いのか、あるいは役割を踏まえ序論に記載するのが良いか、記載箇所について、検討が必要であると考えている。

【委員】資料4で『「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」といった表現で統一しました。』とあるが、表紙の裏(目次の前)の「計画の名称」の中で、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」となっており、直すべきである。

【事務局】「競技大会」を削除させてもらう。

【委員】(p.58 の「教育環境を充実する」で、)市長が「選ばれるまち」と謳っている中で、どういった基準でこのまちを選んでもらうかということ、子育てをどこでしようかといった基準になってくると思われる。そういった場合に、例えば、小・中学校のトイレの洋式化もそうかもしれないが、中学校(完全)給食がいつできるようになるか分からないとなると、平塚市が選ばれなくなる要因の1つとなるので、やはり開始時期の明記が必要である。また、p.33 のSDGsのロゴが改訂されているので、最新版に直すべきである。

【副会長】委員の方々から、ものすごく丁寧に読み込んだことによる大切な指摘があった。このように集まって意見を言い合うのは、気が付かないところをしっかりと言うということが1番の狙いであると思う。自治会への加入世帯数や加入率の議論があったが、一番大事なことは、隣り近所が共に助け合う精神であると考えている。安心・安全の社会基盤の完備、特に風水害、最大降水量などの議論があったが、失敗学の観点だと、想定数値を置くと、その数値を越えた時に想定外となり、言い訳となり得る。平塚市の良さの発信やシティプロモーションの議論があったが、それは「魅力」があるかどうかということである。「魅力」があれば、勝手に人は来る。そのときにその人達がもっと長く滞在して、そしてできれば1晩を過ごしてもらえるような、もっと強い求心力や人を引き付ける魅力を言語化することが必要である。また、障がい者福祉を推進することが重点施策にないという意見があったが、その通りで入れるべきであると考えている。最後に、今後、各委員がスポークスマンとなって平塚市の魅力や取組を発信していく責務があると思うので、(この2次素案について)会長と一緒に細かな意見も含めて丁寧に見ていき

い。

【委員】先日平塚市が「共生社会ホストタウン」に登録された。「共生社会ホストタウン」先進自治体ということを出せると平塚市の魅力をアピールできて良いと考える。また、気候変動問題について、県でも現段階では具体的なことを示せないが、大きな方向性が打ち出せると良い。

【委員】平塚市をより魅力的に発信していくということは重要だが、自治体間競争ではなく近隣市町と連携してお互いに良いところを出していけることが必要である。

【会長】それでは次回の審議会では、私が作成した答申（案）を皆様に議論いただくことになるのでよろしくをお願いしたい。事務局から何かあるか。

【事務局】平塚市漁業協同組合の後藤委員だが、ここまで一身上の都合により欠席しており、次回も欠席の予定である。事務局としては、平塚市漁業協同組合から別途意見を聴取したいと考えている。

【会長】以上で審議を終了する。皆様の協力に感謝する。

以 上